

一月十八日

複合スタジオの名称は都市形成デザインスタジオはどうだろうか。佐藤研助手クラス+非常勤講師+野村(都市史)+森川(K)場所は一部明和会より提供してもらうことはできないか。プロジェクト&リサーチは明治通りのコンバージョン。

講義のプログラムを作成する必要がある。

昼明和会の方々と明治通りの明きビルを見て廻るが展覧会には色々と不都合があり、結局学内でやるしかないの結論に達した。残念。午後設計製図採点。三年生の製図の質は持直した。鈴木了二、野村悦子両先生に感謝する。

一月十九日

朝武蔵境駅待ち合わせ。スタジオボイス取材。国際キリスト教大学内の泰山荘、松浦武四郎の一畳敷の書斎を見学。ライカ写真機をおうとして観察がどうしても手ぬるくなってしまふ。だつてシャッターを押しても撮れてるかどうか不安なんだから。鈴木博之にとうに先を越されていた無念さもあり、何となく身が入らぬ見学になった。湯浅八郎記念館編泰山荘を著したヘンリー・スミス氏が鈴木さんの友人であるらしい。案内して下さった方に尋ねるに鈴木さんがこの一畳敷を実見しているかどうかは不明だった。藤森照信はまだ来ていないとの事。何故かチョッとホッとする。小学校の運動会みたいな気分。しかし実見してようがいま

いがこの一畳敷の意味の発見は私は遅れて辿り着いた人に過ぎない。勉強不足が痛い。午後早稲田講評会。大体講評会のクリティークに対する受け答えで学生の力やら何やら得も言えぬものはわかるようになった。要するに批評しても無表情な学生はダメなのだ。すでに人生に立ち向おうとしてない。

夜西調布聖徳寺打合わせ。十一時半帰宅。

明日から手つかずであった諸々の原稿を始めよう。

クラスは昭和60年代には7000羽ほどだったのが今や3万5000羽程推定だろうが東京都に居るそうだ。

一月二〇日 日曜日

屋上菜園を綿密に視なおしたら、土くれの影にいささかの緑が芽びいているのを発見した。水仙の芽も二つきちんと生えていた。新たに三、四種の植物を植えて、たつぷりと屋上菜園に水をやった。

一月二一日

地下打合わせ朝九時半より夕方六時まで。

その間に日本フィンランドデザイン協会のための原稿書く。栄久庵憲司小論になるが、それで良いのだと思う。日本の工業デザインの問題はそのママ栄久庵憲司が抱え込む問題なのだ。謂はゆるデザインの世界には日本で批評家理論家が不在だ。それがデザインの世界の可能性を閉ざしている。